

Title	国際石油メジャー子会社の発展プロセスに関する一考察
Sub Title	
Author	石井剛(Ishii, Takeshi) 浅川和宏
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1996
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1996年度経営学 第1233号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001996-1233

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

石井 剛

主査 浅川 和宏

(モービル石油株式会社)

副査 奥村 昭博

池尾 恭一

所属

浅川 和宏 研究室

国際石油メジャー子会社の発展プロセスに関する一考察

石油産業が成熟産業と言われて久しい。需要は緩やかな成長にとどまり、必然的に競争が激化している。同時に石油産業は現在激しい競争構造の変化に直面している。規制緩和を受けて流通産業からの新規参入が相次ぎ、市況は下落の一途をたどり、石油元売り各社の収益は悪化し続けている。また、消費者は今まで以上に「価格コンシャス性」を強め、その購買習慣を変化させながら小売の「業態化」とアップサイジングを求める傾向にある。

この様に厳しく複雑な競争環境のなかで、国際石油メジャー子会社は生き残り、発展していくことができるのであろうか？その発展プロセスは恐らく、日本の民族系石油元売りとは異なり、多国籍企業（MNC）に特有の内部構造に影響を受けるはずである。成熟期にある石油の産業構造と日本の特殊な競争環境及びMNCに特有の内部構造（コントロールとネットワーク）とはどのように結び付き、影響を与えているのであろうか？そのメカニズムをモデル化し、因果関係を探ることでMNC子会社の発展プロセスを考察した。

結論は、子会社の発展は「innovationの実現」に掛かっており、この実現には3つの前提条件が必要ということである。それは①親会社からのAutonomyの付与、②demandingな顧客とinnovativeな競合他社が存在する環境、③子会社のindependent capabilitiesであり、これらの条件が満たされて初めてinnovationが実現し、蓄積された知識を原動力としてMNC子会社が発展するものとする。